

都立図書館在り方検討委員会 中間報告

～AI時代の都立図書館像～

令和2年3月 都立図書館在り方検討委員会



はじめに

- 都立図書館は、明治41年に東京市立日比谷図書館が開館してから現在に至るまで、時代の変化に応じて新しい役割を担いながら、多様な活動を支援してきました。
- 急速に進む少子高齢化や働き方の変化、AI等の先端技術の進展など、社会情勢が急激に変化しつつある中、東京の社会、経済、産業、教育、文化等の発展に貢献するため、利用者の多様な学習活動や調査研究活動を支援していくことが必要です。
- 都立図書館は、都民へのサービスを担う図書館として、子供や高齢者、障害者、在住外国人、海外からの来訪者などにも配慮し、多様な利用者が活用しやすい図書館を目指す必要があります。
- 本委員会では、20年後、そしてその先の東京を見据えながら「AI時代における新たな図書館のサービス、施設」に焦点をあて、未来の都立図書館の在り方を検討しています。本報告では、これまでの検討委員会での議論をまとめ、今後の検討を進めていくための論点を整理しました。



東京市立日比谷図書館正面写真
(都立中央図書館特別文庫室所蔵)

令和2年3月 都立図書館在り方検討委員会

目次

1	検討の背景・目的	4
---	----------	---

2	都立図書館の現状と課題	6
---	-------------	---

- (1) 都立図書館、国会図書館、区市町村立図書館との役割分担 7
- (2) 都立図書館の概要 8
- (3) 都立図書館の現状 9
- (4) 都立図書館の課題 10

3	他図書館の参考事例	11
---	-----------	----

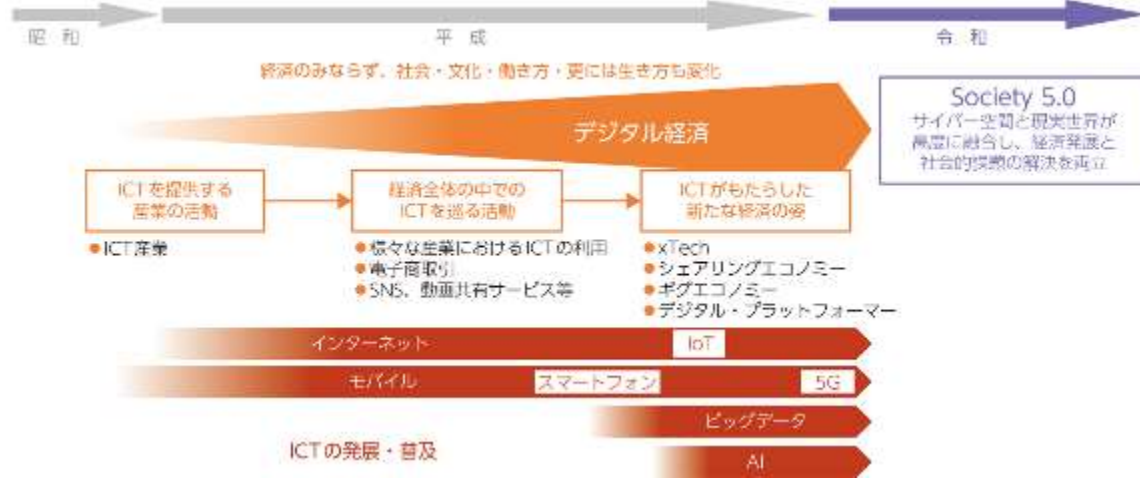
4	今後求められる都立図書館の役割	13
---	-----------------	----

- (1) ICTを活用したサービス 15
- (2) 蔵書構築（資料の収集・保存・活用） 16
- (3) 施設・運営 17

1 検討の背景・目的

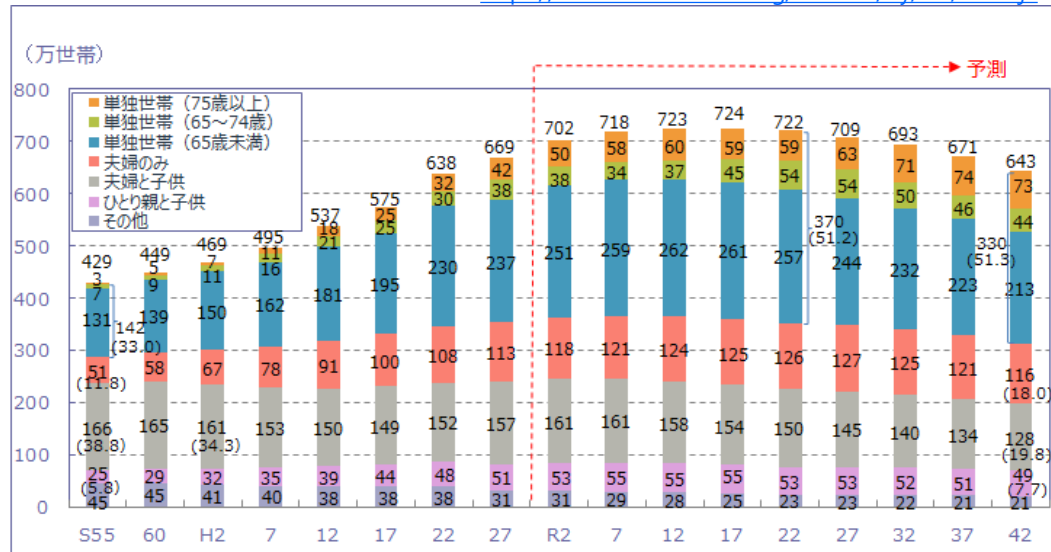
1 検討の背景・目的

急激な環境の変化に対応する、図書館の在り方検討が必要



出典：「令和元年版情報通信白書」（総務省）

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/html/nb000000.html>
licensed under CC BY 4.0 <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>



出典：『「未来の東京」戦略ビジョン』（令和元年12月、東京都）

ICTの進展

AI、IoT、5Gなど、新技術の社会実装が世界中で進行。東京都では、東京版Society5.0である「スマート東京」を実現することにより、都民のQOLを向上させるとともに、世界のモデル都市となることを目指している。

社会情勢の変化

東京都の人口は令和7年に1,417万人でピークを迎えたのち、令和42年には1,192万人まで減少し、人口構成の激変が見込まれる。少子高齢化が進むほか、在住外国人の増加も予想されている。

施設の老朽化

都立中央図書館は築47年が経過し、老朽化が進行。雨漏りや冷暖房の不調などが発生しており、当面必要最低限の改修・設備更新などを行っている。

長期的な視点で、東京の新たな図書館の役割、施設、運営・サービスの在り方を検討する必要性

2 都立図書館の現状と課題

(1) 都立図書館、国会図書館、区市町村立図書館との役割分担

都立図書館は、都道府県立図書館として、区市町村立図書館と役割分担しながらサービスを提供

都立図書館の主な役割：①都民に対する資料提供、②区市町村立図書館への支援、③都内図書館間の連絡調整等の推進

	国立国会図書館	都立図書館	区市町村立図書館
役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国会議員の職務遂行に資する。 ■ 行政及び司法の各部門の職務の遂行に資する。 ■ 上記の目的を妨げない限り、日本国民に対して図書資料等を提供 (「国立国会図書館法」(昭和23年2月9日法律第5号)第21条要約) 	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様な課題に直面する都民(個人・団体)に対し、広範囲かつ豊富な蔵書を整備し、提供する。きめ細かいレファレンスサービスにより都民の課題解決の総合的な窓口としての役割を担う。 (「都立図書館の基本的方向」平成17年8月25日) ② 区市町村立図書館への支援 ③ 都内図書館間の連絡調整等の推進 (「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」平成24年12月改正) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図書、記録その他必要な資料を収集し、一般公衆の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的として設置する。 (「図書館法」第二条) ■ その在り方としては、「地域の情報拠点」として、地域の実情に即したきめ細かな直接サービスを行う。 (「都立図書館の基本的方向」平成17年8月25日)
サービス及び特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 館内閲覧のみ ■ 納本制度のもと、広範な資料を収集・保存し、行政、司法及び国民に対して、すべての出版物を提供 ■ 国会へのサービス 国会の諸活動を調査・情報提供の面で補佐 ■ 行政・司法へのサービス 行政および司法の各部門の業務遂行に必要なサービスの提供 ■ 国民へのサービス 来館利用のほか、他の図書館を通じたサービス、インターネットを通じたサービスを提供 ■ 国内の図書館へのサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 館内閲覧のみ ■ 資料は、原則一点のみの収集 ■ 都民へのサービス 来館利用のほか、インターネットを通じたサービスで利用者の調査研究、学習等を直接支援 ■ 都内区市町村立図書館、学校等へのサービス ■ 政策立案支援サービス 東京都の行政の業務遂行に必要な資料を提供するほか、求めに応じて調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民へ貸出を実施 ■ 住民の要望に応えるため、同じ資料を複数冊所蔵している場合もあり ■ 地域住民へのサービス 地域の実情に即した蔵書構成や個人貸出などにより、きめ細やかなサービスを提供 ■ 当該区市町村の行政へのサービスを実施している図書館もあり

(2) 都立図書館の概要

中央図書館及び多摩図書館の2館で機能を分担し、一体的に運営

都立中央図書館

東京都港区南麻布5-7-13
東京メトロ日比谷線
「広尾」駅 徒歩8分



<調査研究に役立つ豊富な資料・充実したサービス>

- 昭和48年1月開館
- 国内最大級の約210万冊の資料を所蔵
- 調査研究に役立つ図書館として、重点的情報サービス（都市・東京、ビジネス、法律、健康・医療）を実施
- その他、視覚障害者サービス、豊富な外国語資料、多言語化対応の取組、資料保全のノウハウの蓄積・発信、デジタル資料の提供（特別文庫、東京資料）などの特徴がある。

都立多摩図書館

東京都国分寺市泉町2-2-26
JR中央線・武蔵野線
「西国分寺」駅 徒歩7分



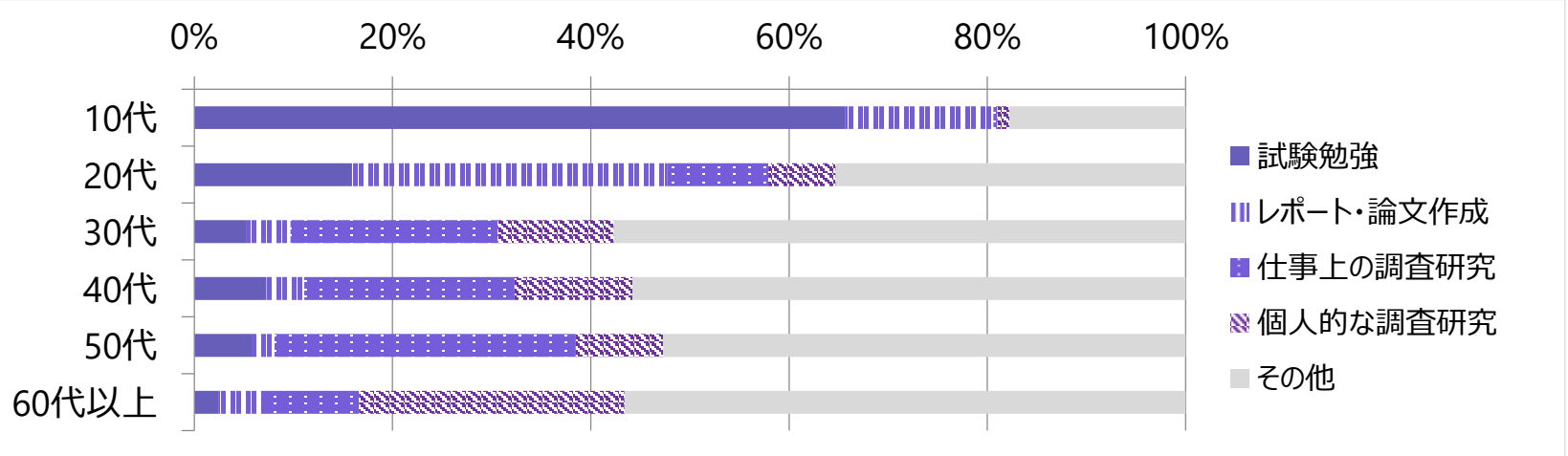
<雑誌と児童・青少年資料サービスに特化>

- 昭和62年5月立川市に開館、平成29年1月国分寺市に移転開館
- 「東京マガジンバンク」として、雑誌の特性を活かしたサービスを行う。「東京マガジンバンクカレッジ」では雑誌を仲立ちとした学びと交流の拠点づくりを目指す。
- 児童・青少年資料サービスでは、子供の読書活動推進の拠点として、読書相談や都内学校への支援、啓発資料の作成などを行う。

(3) 都立図書館の現状

図書館利用の目的

※「図書館利用の目的」と「利用者の要望」は、中央図書館に対するものである。



参考：『平成30年度都立図書館利用実態・満足度調査』

利用者の要望

コレクション充実、開館時間の延長、閲覧席・空調などの施設・設備の改善、職員の専門知識等

参考：『平成30年度都立図書館利用実態・満足度調査』

非利用者の要望

一般書、各分野の新しい本・新分野の本、蔵書検索、デジタルアーカイブ等オンラインサービスの充実、じっくり調べものができる閲覧席等

参考：『平成30年度都立図書館のニーズに関する実態調査』

図書館利用の傾向

- 入館者数は増加傾向にある。来館者は、図書館の近隣区市町村に在住・在勤・在学の利用者が多いが、中央図書館は他県など遠方からの利用も多い。
- 職員やスタッフの対応、蔵書の質・量、レファレンスサービスの利用者満足度は高い。
- レファレンスサービスの質問件数は横ばいで、メール等の非来館者向けのレファレンスサービスの利用が増加している。
- 蔵書検索サービスの利用回数はほぼ横ばいである。都内の公立図書館等の蔵書の統合検索サービスの利用回数は減少傾向にある。

図書館の取組

- 区市町村立図書館への図書の協力貸出やレファレンスサービスの支援、職員への研修などを行っている。
- 館内のみで利用できる電子書籍（日本語1,406点、英語1,030点）、オンラインデータベース（34種）を提供している。
- 調査研究ルーム（平成29年度～）、交流ルーム（平成30年度～）の設置、手荷物持込制限の緩和など、図書館の利便性を向上に励んでいる。
- 企画展示や講演会、図書館ツアーやショートセミナーなど、来館者向けの各種イベントを数多く実施している。
- 全国公共図書館協議会（公共図書館相互の連絡を密にし、調査研究を行い、図書館の発展を図ることを目的とする組織）の事務局を務める。

(4) 都立図書館の課題

- 都立図書館は、「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を使命に掲げ、経験豊富な職員と豊富な蔵書によるサービスを行い、国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援してきた。
- しかし、変化のスピードが早く、予測不能な社会においてこの使命を達成するためには、以下の課題を解決する必要がある。

01

AI時代への対応の遅れ

- ICTが進展し、情報検索などが容易になっている中、図書館の検索システムなどは新しい技術に十分対応できていない。
- 様々な形態の情報が登場する中、扱うものは紙の本が中心であり、デジタルコンテンツの提供が遅れている。
- 新しい技術を上手く取り入れるなど、時代に応じたサービスへとアップデートしていく必要がある。

02

来館サービスへの偏重

- 本の閲覧や各種イベントなど、現在のサービスは来館を前提としたものが多い。
- 立地的・時間的制約から、来館しづらい都民もおり、約1400万人の全都民に対するサービスが提供できていない。
- 超高齢化社会が到来する中、外出が困難な都民も増えると見込まれることから、非来館サービスの充実が必要である。

03

情報の創造・発信が不十分

- これまで図書、記録、その他必要な資料を収集・整理・保存・提供という基本的な機能・役割を果たしてきた。
- 図書館の利用は、個人の調査研究が主流であり、他の利用者との交流といった利用はあまり浸透していない。
- 今後は、情報を蓄積するだけでなく、図書館の蔵書や場所を活用して、人々が交流し、新たな知識を創出し、発信する場所への転換が必要である。

3 他図書館の参考事例

3 他図書館の参考事例

■ 国内外の先進事例には、次の6つの共通点が見られる。

優れた空間設計

明るく開放的な空間、風格のあるデザインなど

職員の専門性

司書職のみならず、社会課題に応じた専門職の活用

人々の関心を引きつけるイベント

様々な利用者に焦点を当てたイベント、イベントで賑わいを演出

魅力的なコレクションと本棚

蔵書の充実だけでなく、利用者のニーズに沿った使いやすい本棚づくり

効果的なICT活用

利用者向けサービス、バックヤードの業務へのAI活用

住民ニーズの把握

住民ニーズを把握し、図書館運営に活用



優れた空間設計（例）
明るく開放的な閲覧室



効果的なICT活用（例）
本棚への案内のロボット

※いずれもヘルシンキ市立中央図書館「Oodi」の事例

4 今後求められる都立図書館の役割

4 今後求められる都立図書館の役割

- 都立図書館は、都の社会課題を解決し、より良い社会を切り拓くための施設として、時代に合ったサービスを行っていく。また、すべての都民の生涯学習を支える図書館としての使命を果たしていく。
- 東京都は日本の首都として「東京と地方の共存共栄」の実現を目指している。都立図書館は、首都の図書館として、新しい技術を取り入れたサービスを行うなど、先進的な取組を積極的に実践していく。これらの実践を都内区市町村立図書館のみならず、全国の公立図書館へと波及させ、日本の図書館界の発展に寄与する。

01

オープンデータによる資料提供や、AI等の新技術の導入等、ICTの進展に対応したサービスを提供する図書館へ

02

どこでも、誰でもサービスを楽しむことができるインクルーシブな図書館へ

03

都民をはじめ利用者の研究・交流を支援し、新しく高度な知識を生み出す図書館へ

- 上記3つの役割を担う図書館へと発展していくため、
 - ① ICTを駆使したサービスの充実
 - ② デジタル資料と特色あるコンテンツの重点的な収集・提供
 - ③ 首都・東京の図書館ならではの施設・運営の追求の観点から、都立図書館の新しい機能を検討していく。

(1) ICTを駆使したサービスの充実

- 都ではあらゆる産業や生活の場面で、データや最先端技術を駆使した質の高いサービスが提供される、東京版Society5.0「スマート東京」の実現を目指している。
- 都立図書館においても、AI等の最先端技術を積極的に取り入れることで、既存のサービスのレベルアップを図るなど、より質の高いサービスを実現できる可能性がある。
- ICTの特徴や課題等を理解した上で、人と機械それぞれの強みを活かしたサービスを設計していく。なお、ICTの進展に対応し続けられるよう、サービスの基盤となる環境や体制を構築した上で、様々なサービスを展開していく。

取組例

ICT活用を支える環境・仕組み

- 安定した通信ネットワークとコンピューターシステムの整備
- 図書館システムの持続的な運営・体制づくり
- システムライブラリアン（図書館におけるICT人材）の活用

ユーザー目線の使いやすく・便利なシステムの提供

- 時代に即したインタフェースや機能・性能の実現
- AIを活用した、きめ細かいサービスとパーソナライズ化
- 利用者がシステムを円滑に利用できるよう、サポートの強化

業務の改善

- チャットボットなどを活用した簡易な質問への対応
- AIによる蔵書点検などバックヤード業務でのICT活用
- ドローンによる本の搬送

(2) デジタル資料と特色あるコンテンツの重点的な収集・提供

- デジタルコンテンツの流通量が増加し、今後は電子媒体での利用を前提としたオープンデジタル資料や、マルチメディアコンテンツの更なる拡大が見込まれる。
- また、従来の紙資料についても、著作権やプライバシーに十分留意しながら、デジタル化・公開を行うことで、利便性を高めることができる。
- 今後は、従来の紙資料のみならず、デジタル資料や関連するデータを積極的に収集・保存し、利用しやすい形で提供していく。また、都立図書館独自のオリジナルユニークコンテンツも積極的に収集し、魅力的なコレクションを構築していく。

※オープンデータ…政府機関や自治体、研究機関、教育機関、企業などがもつ、だれでも入手が可能で、自由に利用や配布ができるデータやコンテンツ。

出典：コトバンク “オープンデータ” (日本大百科全書)
(<https://kotobank.jp/word/オープンデータ-685604>)

取組例

デジタル資料の充実

- 紙資料のデジタル化の推進
- 電子書籍、電子ジャーナルの提供数拡大
- オープンデジタル資料の積極的な収集
- IT企業や大学などの技術を活用したデジタル化の推進

デジタル資料の提供

- 他機関のデジタルアーカイブとの連携による利用促進
- オープンデータ※による資料提供
- デジタル資料の提供に向けた、出版社との権利関係の調整

本以外のコレクション

- 5G普及に伴い拡大するマルチメディアコンテンツへの対応
- 都民からのコンテンツ、データの収集
- 図書館主催ワークショップのアウトプットや成果のアーカイブ化

※取組例はあくまで一例であり、詳細については今後検討していく

(3) 首都・東京の図書館ならではの施設・運営の追求

- 日本の首都である東京には、多くの大学・研究機関、出版社やIT企業が存在する、情報の集積地である。
- 都は今後、高齢化が加速し、在住外国人が急増していく中、図書館には地域・社会をつなげる施設としての在り方も求められる。
- 都に集積する大学や企業、また都民との連携を図り、東京都の図書館ならではの取組を行い、都の社会課題の解決や、都の更なる発展に貢献していく。

取組例

東京という立地・規模を生かしたサービス

- 都立大学などと連携した、調査研究支援機能の充実
- 産官学民の連携による共同研究
- 被災時の資料保全など、都の持つノウハウを全国に展開
- 外国語資料の利用を促す提供方法の工夫

交流・創造・発信の場づくり

- 利用者の調査研究成果を発信できる場の提供
- 実空間と情報空間が融合した学びの場の提供
- 利用者の交流を促すイベントの充実

職員に求められる専門性

- 職員による調査研究、報告の発信
- コミュニティを援助し、知識を創出するためのワークショップ等を支援することができる能力
- 専門機関との連携による専門人材の確保